

平成30年度事業計画(案)

1. 基本方針

日本包装学会では、平成30年度も引き続き「包装学の深化と体系化、社会の要請に応えうる開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を主な柱に、事業を展開したいと思います。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行を行います。また、これらの日標を実現するために、以下の方針を立てます。

「産官学各分野の均衡ある活動促進」

大学等の包装関連研究領域の研究者あるいは学生の学会への関心を高めるとともに、学会の運営においても「学」の立場からの意見をこれまで以上に取り入れることができるように配慮していきたいと思います。また、企業等の研究者に対しては、研究成果を科学としてまとめて発信してもらえよう、「場」の構築について努力を継続します。

「学生や若手研究者・技術者に魅力ある学会へ」

若手研究者、技術者、学生会員のために、学会発表での各種優遇、表彰を引き続き充実させます。また、「若手の会」を通じた会員相互の交流の促進を図るとともに、若手の学会運営への参画の機会を増やします。

「国際化の推進」

学際化、国際化の推進のために、IPSを国際的な研究・技術交流の場の中核と位置づけ、IPSを活用することで国際交流活動を更に活発化させます。また、日本包装学会誌への、「海外情報」の掲載をタイムリーに行うとともに、海外からの投稿を積極的に呼びかけます。

2. 学会の運営計画

2-1. 第27回通常総会

- ・ 日時:平成30年7月13日(金)
- ・ 場所:東京大学 弥生講堂

2-2. 理事会

平成30年度は、3回(うち1回は年次大会時)の開催とする。

2-3. 会長補佐会議

理事会同様、3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、メール審議を含めて臨時に開催するものとする。

3. 各委員会の活動計画

3-1. 編集委員会

- ・ 昨年度に引き続き、「日本包装学会誌」を6回発刊する。
- ・ 各号で編集責任者を決め、特集を企画する。
- ・ 「巻頭言」、「新包装基礎講座」、「総説」等を連載する。
- ・ 論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

- ・ 委員会開催 6回開催予定(内、1回は見学会を兼ねて地方開催とする)

[長期活動方針]

論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

[他委員会との連携]

大会運営委員会と連携し、年次大会での優秀発表に対し、特に積極的に投稿を呼びかけたい。

3-2. 企画委員会

シンポジウムを3回開催する。

- ・ 平成30年6月30日 第76回:「第四次産業革命における包装産業の未来を考える(5題)」
- ・ 平成30年11月中 第77回:「(仮)医薬品包装について(4~5題)」
- ・ 平成31年2月予定 第78回:「未定(4~5題)」

各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会を4回開催する(第124~127回)。

- ・ 平成30年5月10日、10月(予定)、12月(予定)、および平成31年2月(予定)
しばらく実施していなかった参加者へのアンケート調査を実施し、企画立案の参考とする。

[長期活動方針]

ここ数年黒字傾向にあり、この状況を維持あるいは拡大できる様、魅力ある企画を立案する。

予期せぬ災害等により当日のプログラム変更を余儀なくされた場合の対応方法(代替講演、返金ポリシーなど)の明文化を進めていく。

[他委員会との連携]

シンポジウムの講演者に解説記事を依頼するなど、編集委員会との連携が想定できる。

3-3. 研究委員会

4つの研究会にて下記の活動を計画している。

- ・ バリア材料研究会 第24回バリア材料研究会を開催予定。平成30年度より主宰を株式会社クラレの渡邊知行氏から同社 田井伸二氏に交代予定。
- ・ 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッション2018を9月21日にあいち産業科学技術総合センター産業技術センターにて開催予定。
- ・ 包装とIoT研究会 以下の活動テーマにもとづき研究会を開催予定。
 - 包装とIoTの戦略・企画 :スマート製品のケイパビリティ実現を課題とし次のテーマを選定した。「モニタリング」「制御」「最適化」「自律性」の面から講師を選定し研究会を開催
研究会活動の中心トピックス
 - 包装とIoT活用への道筋(見学等により事例を勉強し、方向性を確認する) またSDN戦略的活用例を調べる。
 - 包装とIoTのセキュリティー(IoT機器における情報セキュリティー、機密性、完全性、可用性と包装の役割研究)
- ・ 若手の会 第27回年次大会の前日に、輸送包装コミュニティとの共催イベントを開催予定。

研究委員会の委員長を大阪技術研の中嶋隆勝氏から、神栄テストマシナリーの川口和晃氏に交代し、これまで不在だった副委員長については、(国研)農研機構・食品研究部門の北澤裕明氏にご就任いただく(平成30年度総会時点)。

[長期活動方針]

現在活動中の4つの研究会には今後も継続して活動していただく予定である。各研究会の活動を通じて、学会の活性化をめざす。各研究会の長期的活動方針は次のとおりである。

- ・ バリア材料研究会 米国、欧州、日本／アジアの各極にメンバーと拠点を持つ強みを生かした情報交換や人材交流。
- ・ 輸送包装研究会 輸送包装ディスカッションなどの情報交換や人材交流の場を提供。
- ・ 包装とIoT研究会 「情報ITネットワーク社会における包装」という切り口から、モノのインターネット、クラウドコンピューティングを含めて包装の新領域を開拓する技術者の支援をしていく。
- ・ 若手の会 学会の振興と学会誌への投稿数の増加につながる活動を継続して実施する。

3-4. 大会運営委員会

年次大会に向けた委員会活動予定

- ・ 第208回 平成30年4月10日 東京海洋大学
 - ・ 第209回 平成30年6月12日 東京海洋大学
 - ・ 会場準備 平成30年7月11日 東京大学
 - ・ 大会1日目 平成30年7月12日 東京大学
 - ・ 大会2日目 平成30年7月13日 東京大学
- 以降の日程詳細は未定(平成30年9月 アンケート集計まとめの予定)

第28回年次大会開催地について

- ・ 東京大学にて実施予定(2019年7月11日、12日)
- ・ 予定会場:弥生講堂(メイン会場)、アネックス(セイホクギャラリー:ポスター会場 or サブ会場)

3-5. 広報委員会

- ・ インターネット関連

費用削減の観点から本年度は定型のHP更新作業、メール配信作業に絞って活動することを原則とする。ただし、各委員会から要望が発生した場合は、予算を別途申請することで柔軟に対応していく。

- ・ 東京パック対応

2018年10月開催の東京パックに出展し、書籍・資料の販売を行う。

[長期活動方針]

ホームページの改善活動を中心に情報の発信を強化し、会員へのサービス提供と会員増強に継続して努めていく。

[他委員会との連携]

催物の情報発信をタイムリーに行う等で各委員会と連携し、広報活動を充実させていく。

3-6. 国際交流委員会

メール審議を主として、以下の活動を実施していく。

- ・ IPS'19の計画立案
- ・ 「海外情報」の学会誌掲載
- ・ 海外の研究者から学会誌への投稿推進

3-7. 学会賞等選考委員会

年度末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

3-8. 財務委員会

支出削減による収支バランスの健全化を図る。 毎月の財務状況確認による健全な財務運営。
各委員会活動を支援可能な予算の作成。

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。 学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。